



循環型コミュニティ構想 「見沼の里」

“見沼たんぼを自然と
共生する田圃へ”

自然と共に育む稲作り

見沼たんぼを自然と共生する田圃にしよう！

日本の農業人口は約132万人と全人口の約1%（平均年齢69歳）農業従事者の内70歳以上の割合は約7割と最も高齢化が進んでいる状況です。そして、日本の食は、この超高齢者の方々に支えられています。彼らの平均引退年齢は74歳、ということは？

5年後には、その半数の方が引退を迎える年齢になります！
その数、何と60万人。（新規就農者数は毎年約5.5万人）
農業人口は、毎年平均約8万人ずつ減り続けているのです。



ここで、突然ですが耕作放棄地について考えてみると

日本の国土面積：3780万ha

日本の農地面積：437万ha(日本の国土面積比約12%)

日本の耕作放棄地面積42万ha（対農地面積比約1割）
（因みに、日本の国土の約3分の2は森林です）

農地は、6年後の令和12年には、414万ha と5%程度減ることが見込まれている一方、耕作放棄地は、毎年2万ha（東京ドーム約4千個）つつ増加しています。

我々はない知恵を絞って考えました

我々にも何か出来ることはないか？
日本には耕作放棄地は溢れている。
何か良い方法は？でも、その前に！

見沼たんぼ全体の面積は**1276ha**ありますが、水田はたった**6%(76ha)**しかありません。約半分が畑で、それ以外は既に宅地等に変容しています。

まず江戸時代から続く神沼と言われたこの見沼たんぼを自然と共生する
いやしろ地に再生しよう。それが、我々が思いついた答えなのです。

生態系を維持し、自然と共生する栽培方法で。草を除草剤で除去するのではなく、栽培方法により抑制し、土壌を豊かにする稲作。これが我々が実践する循環型の有機稲作です。そして、この環境を次世代に紡いでいく。

そのために

1. 我々は、見沼田んぼの自然に思いを馳せ
2. 循環型の有機稲作技術を一から勉強し、
3. NPO活動としてその実践を始めました。

ですが、まだまだ、未熟者です
そこで、この考えに共鳴して下
さる皆さんとともに、この途方
もない計画を実行出来ないもの
かと考えております。

「我々が目指すもの」



この神沼と呼ばれた見沼田んぼを
無農薬自然栽培でいやしる地へ

我々は、見沼田圃を再生し、自然と調和する田圃に蘇らせたい。そして、その過程を支援者とともに共有したいのです。ほたるが舞い降りる姿を想像しながら。

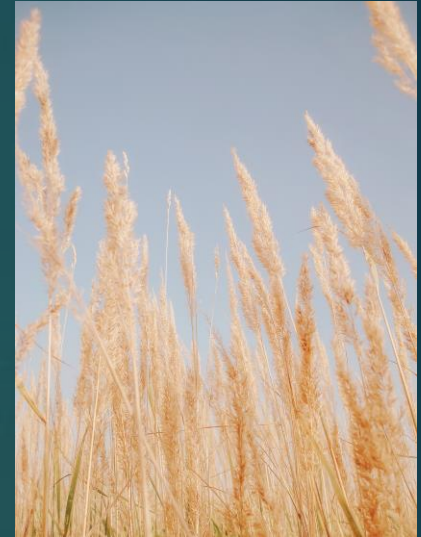
見沼たんぼで稲作りをしませんか。 見沼たんぼをほたるが宿る田圃へ！

- ▶ このプロジェクトは、皆様方のご支援により、見沼たんぼを自然溢れるいやしろ地に再生するプロジェクトです。
- ▶ まず、田圃を微生物の活躍できる環境にすることが第一歩となります。
- ▶ 土に語りかけ、土を耕し、土に感謝する。
- ▶ そして、種を蒔き、田圃（露地）で育苗を行います。成苗へと育った苗は田圃に還す。苗は深水の中で元気に成長し、雑草の成長は穏やかです。
- ▶ この農法の特徴は、微生物の力を引き出し、土本来の力に頼って、農作物を育くむものです。ですから、基本的に、肥料や農薬等は使用致しません。田圃にやってくる、動植物とも笑顔で共存して参ります。
- ▶ この考え方に共感頂けた皆様には、是非とも、サポーターになって、いやしろ地の実現を応援、体験していただきたいのです。



何も足さない。ただ、そっと自然に手を添えるだけ。自然に寄り添う農業を

- ▶ 主催者：特定非営利活動法人 見沼の里
- ▶ 場所：さいたま市見沼区内（上山口新田及び御蔵松崎農園内）
- ▶ 田圃面積：最大約5ha（近い将来3haまで拡充予定）
- ▶ 現状：田圃1.1ha 畑0.5ha
- ▶ 事業計画：5年程度（詳細は別途）
- ▶ 入会金：1千円 正会員年会費3千円、賛助会員年会費2千円
- ▶ ご支援：会員には当該事業を運営するため、お米の予約購入をお願いしております。
- ▶ 資金使途：種及び苗購入、畑地代、フェス参加費、事業運営に必要な費用等
- ▶ お約束：無農薬で、自然環境に配慮した農法で適宜、種を蒔き、作物を育成します。
- ▶ 進捗状況：適宜、田圃や畑の様子をHP等でご報告致します。
- ▶ 会員特典：実った野菜は、適宜、希望者にお配り致します。但し、作物の種類、時期、収量等を保証するものではありません。お米は会員価格(600円/kg)で購入できます。
- ▶ 作業日に都合がつけば、見沼田圃（畑）で、自然にふれあい、作業に参加出来ます。
- ▶ なんと田圃作業に参加すると1回につき1キロのお米が報奨米として収穫後に提供されます。



我々は何者か？

そもそも、信頼に値する団体なのか？

- ▶ 我々は、食の安全をキーワードに2018年の秋頃、さいたまで集まったおじさん、おばさん達です。
- ▶ そして、安全な食について、互いに情報交換を始め、安全な食がスーパーやコンビニでは簡単には手に入らないことを知り、改めて農業に関心を持ちました。
- ▶ そこで、ネットを通じて自然栽培に出会い、農業塾に通ったり、各々出来る範囲で、実際に田圃や畑で実践を始めました。
- ▶ 我々は、音楽家であり、シェフであり、主婦であり、ドライバーであり、整体師であり、サラリーマンであり、美容師であり、経営コンサルタントであります。
- ▶ つまり、農業の専門家ではありません。ですが、志はあります。
- ▶ そこで、2021年6月に、この構想を実現するため、NPO法人見沼の里を設立し、現在、奮闘活動中です。
- ▶ 我々が皆様の信頼に応えられるのか、それは、正直分かりません。
- ▶ しかし、この夢には現実を変えようとする未来があります。自然と共生する物語が。
- ▶ その夢の実現に少しだけ力を貸していただけませんか？

自然栽培で循環型社会の実現

NPO法人 見沼の里

土の力を信じ
土を微生物が耕す
自然と共生する社会へ



雑感



今の社会インフラが壊れた際にも、豊かに暮らしていけるような自然環境と、自然と共生する文化的な営みを見沼の里では味わえるようにしたいと思っています。

ただ災害に備えて食糧生産のために田圃や畑をつくるというのではなく、例え今の社会基盤が壊滅的になっても、「すでに今わたしたちはとても豊かで美しい世界に生きているのだ」ということを、実感出来る、そんなコミュニティの実現を図って参りたいと考えております。

見沼の里 事業目的

耕作放棄地を田圃や畑に蘇生
循環型有機自然農法の実践
虫が輝く自然環境を創生
有機農作物を給食へ供給

自然環境の再生・保全

健康（安全な食）の提供

食育事業の推進

健全雇用の場を提供



特定非営利活動法人見沼の里 会社概要

住所 埼玉県さいたま市浦和区東高砂町17-12

令和3年6月14日設立 代表理事 水野清重

HPアドレス: <http://minumanosato.com>

メールアドレス: minumanosato.npo@gmail.com

- ▶ 目的および事業

- ▶ この法人は、有機農産物の栽培を通じて見沼田圃の環境保全に努め、食の安全に寄与するとともに、自然との共生に努め、耕作放棄地の再生、雇用機会の創出を通じ、地産・地消の循環型の社会を創造することを目的とする。

- ▶ 上記の目的を達成するため、当法人は以下の特定非営利活動を行なう。

- 1 農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動
- 2 環境の保全を図る活動
- 3 子どもの健全育成を図る活動

- ▶ この法人は、上記の目的を達成するため、次の事業を行なう。

- ▶ 特定非営利活動にかかる活動

- ▶ ①有機農産物の栽培及び販売事業

- ▶ ②耕作放棄地の蘇生、整備事業

- ▶ ③有機農産物の普及・促進のための文化、芸術イベント並びに食育推進事業